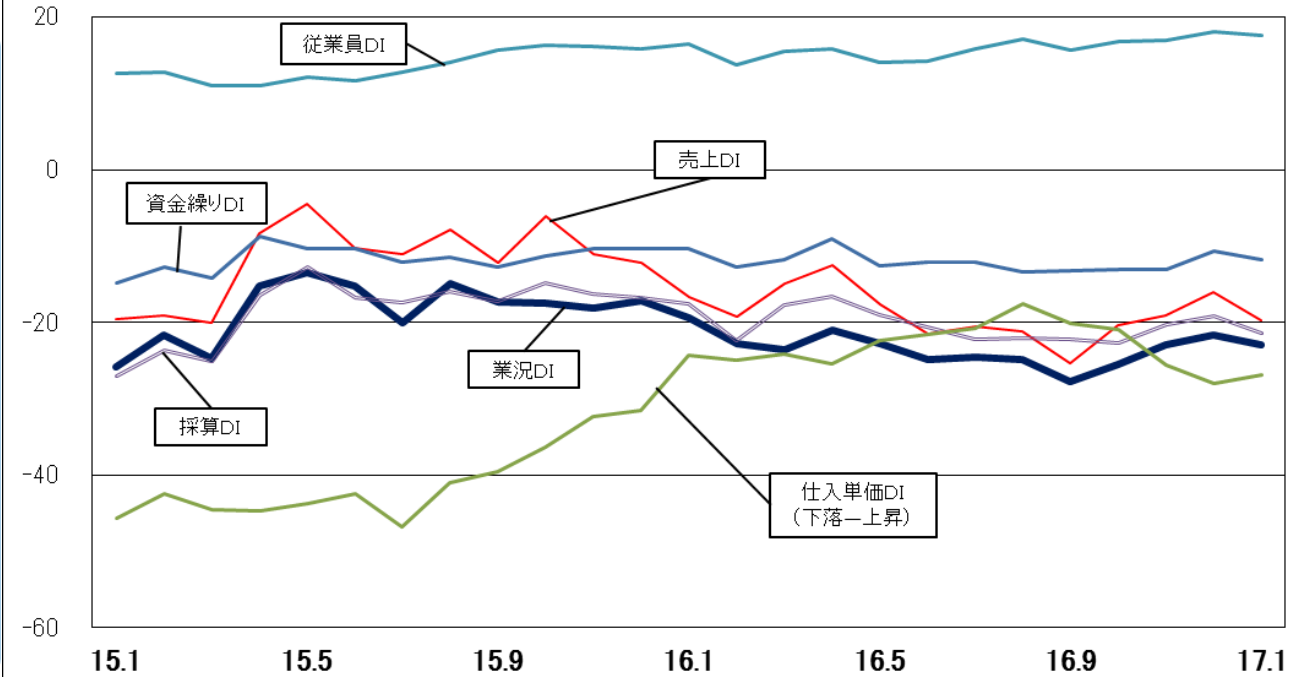


業況DIの改善は、足元で一服。先行きは、横ばい圏内の動きが続く

ポイント

- ▶ 1月の全産業合計の業況DIは、▲23.0と、前月から▲1.3ポイントの悪化。寒波などの天候不順に伴う客足減少や消費者の節約志向、人手不足の影響から、小売業、サービス業などの業況感が悪化した。また、円安進行による原材料価格の値上りを指摘する声が聞かれた。他方、自動車や電子部品関連を中心に生産・輸出が持ち直しているほか、住宅などの民間工事の堅調な動きを指摘する声も多く聞かれた。中小企業の景況感は、総じてみれば緩やかな回復基調が続いているものの、足元で一服感がみられている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲21.0（今月比+2.0ポイント）と改善を見込むものの「悪化」から「不変」への変化が主因であり実体はほぼ横ばい。株高進行による消費拡大や設備投資の増加、海外経済の回復に期待する声が聞かれる。他方、消費低迷の長期化や人手不足の影響拡大、米国新大統領の政策の不透明感、為替の大幅な変動などへの懸念から、中小企業においては先行きに慎重な見方が続く。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2015年1月以降)



2016年度の新卒採用の動向

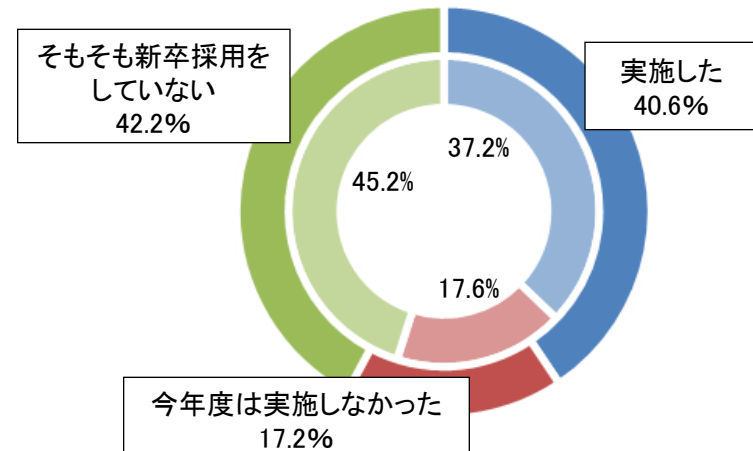
- ▶ 2016年度の新卒採用について、「実施した」企業（全産業）は40.6%と前年同月調査に比べ3.4ポイント増加
- ▶ 「実施した」企業の充足状況については、「計画通りに採用できた」が37.5%と前年同月調査に比べ4.6ポイント減少、一方「採用できたが計画した人数には満たなかった（継続中含む）」「募集したが採用できなかった（継続中含む）」企業は合わせて62.5%と前年同月調査に比べ4.6ポイント増加
- ▶ 採用を実施したが採用人数が計画に満たなかった（できなかった）企業の割合（業種別）では、建設業が最も多く70.2%

[中小企業の声]

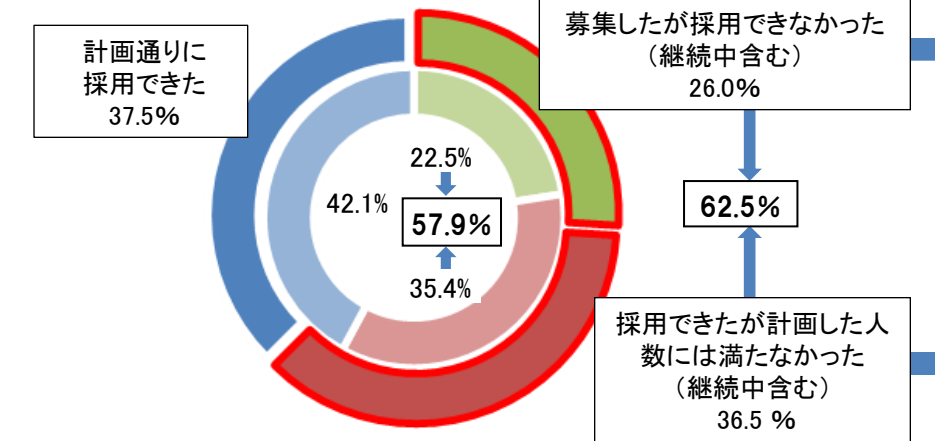
- ▶ 新卒採用は募集人員に満たなかったため、急遽追加募集を行い、何とか予定人数を確保できたが、来期もこういうことが続くのではないかと不安である（浜松 総合建設業）
- ▶ 今年度も新卒採用に向けて募集したが、応募してくる学生が昨年度よりも少なかった。さらに学生は大企業志向が強く、内定後の辞退があったため、計画通りに採用できなかった（名古屋 ソフトウェア業）
- ▶ 新卒ならびに中途採用は、募集をしても応募すらなく全く採用はできなかった（北九州 電気工事業）

◆2016年度の新卒採用の動向(全産業)

※円グラフの外側が1月調査、内側は前年同月調査



◆充足状況について(全産業)



(参考) 採用を実施したが採用人数が計画に満たなかった(できなかった)企業の割合(業種別)

業種	採用できたが計画した人数には満たなかった	募集したが採用できなかった	合計
建設業	36.0%	34.2%	70.2%
製造業	39.0%	19.1%	58.1%
卸売業	26.5%	36.7%	63.3%
小売業	38.9%	21.1%	60.0%
サービス業	36.5%	25.0%	61.5%

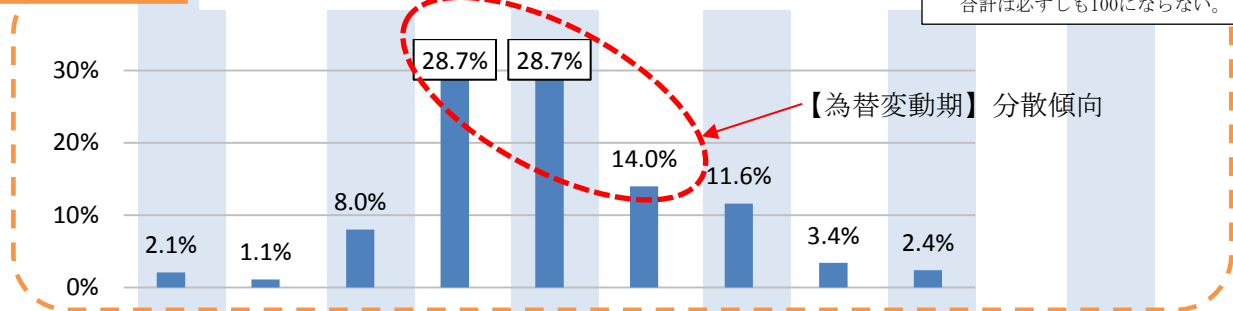
経営上望ましい為替水準

- 自社の経営上望ましい為替水準（全産業）は、「100円～105円未満」と「105円～110円未満」が28.7%と最も多く、「110円～115円未満」が14.0%と分散した
- 望ましい為替レートの推移を見ると、これまでと同様に、調査時点前の一定期間における為替水準が安定している場合には特定のレートに収斂し易く、変動している場合には分散し易い傾向が見られる

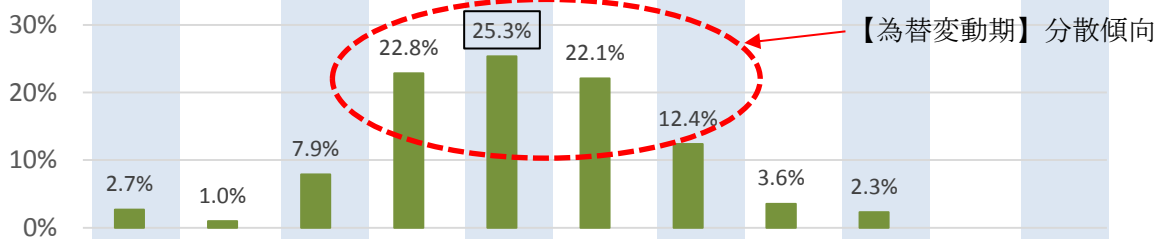
今回調査結果

①2017年1月調査(直近1年間のレンジ101円～118円)

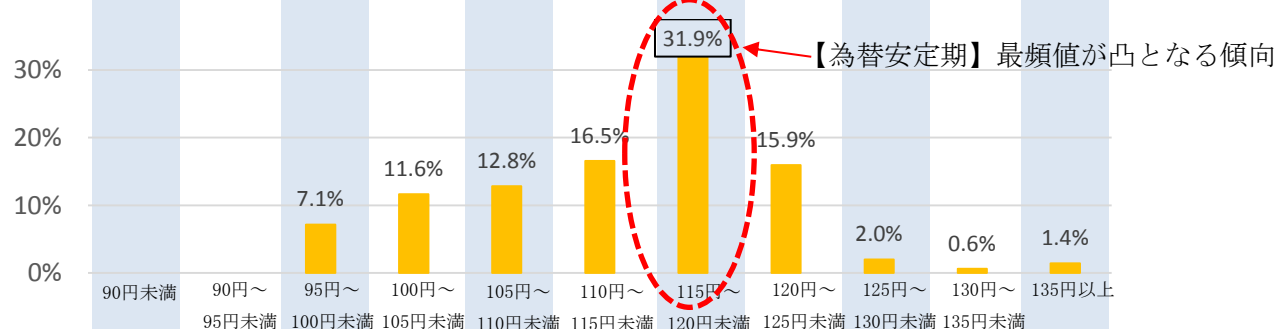
※四捨五入により端数処理したため、数値の合計は必ずしも100にならない。



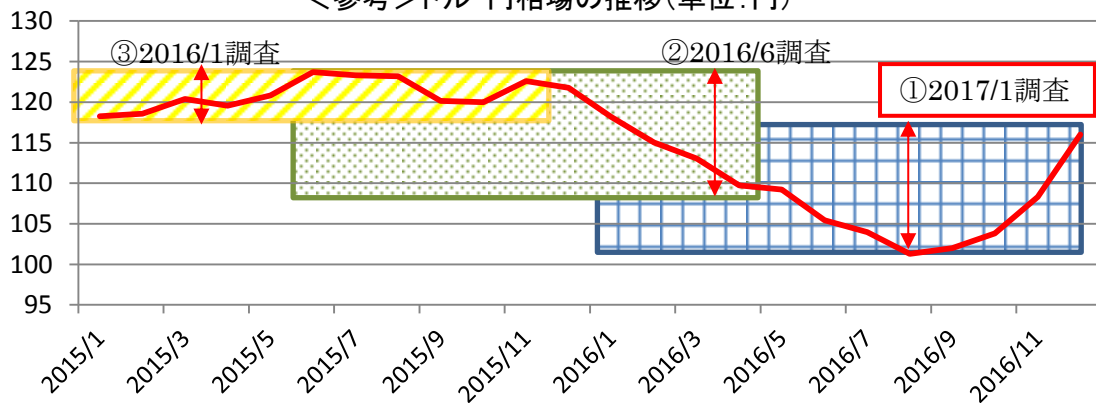
②【前回調査】2016年6月調査(直近1年間のレンジ104円～124円)



③【前々回調査】2016年1月調査(直近1年間のレンジ117円～124円)



<参考>ドル・円相場の推移(単位:円)



[中小企業の声]

<出典>日本銀行 東京市場 ドル・円 スポット 17時時点/月中平均

- 為替予約等で差損が発生しないようにしているが、為替の動きが予想以上に激しく対応しきれない。もう少し安定してほしい (米沢 電線製造業)
- 輸入品を中心に仕入れているため、為替変動は仕入価格に影響する。急激な円安進行は、販売価格にすぐには転嫁できないため採算の確保が難しい (八尾 衣料・雑貨卸売業)